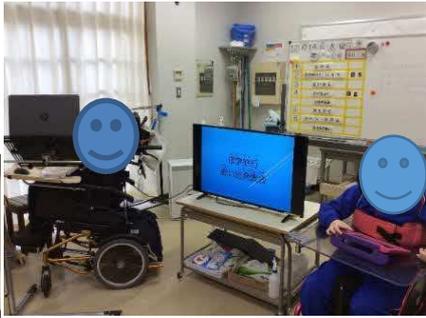


教材・支援機器活用実践事例【ICT】

相談・協力して発表に取り組むための ICT 活用 「修学旅行の報告会の発表」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・高等部2年
	障がい名等	知的障がい・肢体不自由
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単な言葉や平仮名を理解し、音声言語や指差し、表情などで質問に答えたり、自分の考えを伝えたりすることができる。 ・ 活動手順や見本を提示することで安心して活動に取り組むことができるが、待つことや友達と協力することに難しさがある。
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	国語：聞くこと・話すこと、職業：情報機器の活用
	単元(題材)名	単元名「修学旅行に行こう～修学旅行報告会をしよう～」
	単元(題材)の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機器を使用して、修学旅行の報告会を行うことで、友達と思い出について話し合ったり、友達と協力したりする態度を育む。
教材・教具支援機器について	教材・教具 支援機器	タブレット端末、ボタンスイッチ、TVモニター、パソコン  
	ねらい・工夫点	〈ねらい〉 ○ 発表準備の相談や発表時の分担（話す人と機器操作を分ける）などに ICT 機器を活用し、お互い話し合い協力する態度を育む。 (友達の発表を見たり、聞いたりしながら自分でタイミングを確認し、タブレット端末やコンピュータなどの操作をするようにする。(深い学び)) 〈工夫点〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ VOCA アプリを使用し、修学旅行の思い出から発表する内容を相談し入力できるようにした。 ・ ボタンスイッチでマウスを操作できるようにした。 ・ 発表者と操作者に分かれて、協力して発表できるようにした。
	材料・作成方法等	タブレット端末、アプリ (DropTalk)、PowerPoint
子どもの変容や評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表する思い出の内容を各自の思い出ではなく、二人で話し合って決めることができた。 ・ 発表練習の最初は自分のタイミングでスイッチを押していたが、練習を繰り返すことで、相手の操作する状況を意識してタイミングを合わせ、協力して報告する姿が見られた。 	